英文解釈 L01 第 18 講 事実と仮定・話者の判断を区別する

学習目標

学習目標

- 条件節と主節の対応から、現実の条件・現在と異なる仮定・過去と異なる仮定を区別できる。
- 動詞の過去形・過去完了形と明示された時点を照合し、過去の事実と現実から離れた仮定を読み分けられる。
- would・could・might・may などが表す話者の判断を保ち、実際に起きたと示されていないことを事実として訳さずに済む。

概念・読み方

1. if があっても、条件が実際に成り立つとは限らない

解説

英文に if が現れたとき、「もし〜なら」と訳すだけでは十分ではない。**その条件が現実に成立する可能性を残しているのか、それとも現実とは異なる状況を仮に考えているのか**まで読む必要がある。

例えば、練習室について次の状況が分かっているとする。

練習室は今閉まっており、昨日も閉まっていた。明日開くかどうかは、まだ分からない。

この状況で、次の 3 つの英文を比べてみよう。

① 明日の条件

If the practice room is open tomorrow, we will practice there.

明日、練習室が開いていれば、私たちはそこで練習するだろう。

② 現在と異なる仮定

If the practice room were open now, we could practice there.

もし今、練習室が開いていれば、私たちはそこで練習できるのに。

③ 過去と異なる仮定

If the practice room had been open yesterday, we could have practiced there.

もし昨日、練習室が開いていたなら、私たちはそこで練習できただろうに。

3 文とも if で条件を示している。しかし、話者が条件をどう捉えているかが異なる。

①では、明日練習室が開くかどうかは未確定である。if 節は明日の条件を提示し、主節はその条件が成り立つ場合の予定・見通しを述べている。明日実際に開くことも、そこで練習することも、まだ事実として述べられていない。

②では、今は練習室が閉まっている。それに対して、開いている状況を仮に考えている。were は過去形だが、ここで想定しているのは過去ではなく現在である。

③では、昨日練習室が閉まっていたという事実に対し、開いていた場合を考えている。had been は、昨日という過去の時点について現実と異なる条件を表す形である。

重要なのは、**動詞の形に表れる過去と、想定している出来事の時点を分けて考えること**だ。

©ミライコーチング

2. 条件節と主節を一組で読む

現実条件・現在反実・過去反実

現実の条件は、条件が成り立つ可能性を残したまま、その場合の結果や判断を述べるものである。未来の条件では、if 節に現在形を用い、主節に will や may などを用いることがある。

現在反実は、現在の現実とは異なる状況を仮に考えることである。基本形は「if＋過去形」と「would／could／might＋動詞の原形」の対応である。

過去反実は、過去に実際には成立しなかった状況を仮に考えることである。基本形は「if＋had＋過去分詞」と「would／could／might＋have＋過去分詞」の対応である。

解説

if で始まる条件節は、基本的に主節全体へ条件を付け加える副詞節として働く。本教材では、大きなまとまりの働きを、名詞〈 〉・形容詞〔 〕・副詞( )で示す。例えば、(If the practice room were open now)は、主節の内容がどのような条件の下で成り立つかを示している。

構造を示す S・V・O・C・M は、それぞれ S が主語、V が述語動詞、O が目的語、C が補語、M が修飾語を表す。V には下線を付ける。なお、M は必ず省略できるとは限らない。

文を読むときは、if 節の中だけを見て判断を終えない。条件節の形と、主節の動詞のまとまりを対応させる必要がある。

現在反実なら、if 節の過去形と主節の would・could・might などが結び付く。過去反実なら、if 節の had＋過去分詞と、主節の would have・could have・might have などが対応する。

この対応を確認すれば、過去形が単なる過去の出来事を表しているのか、それとも現在の現実から距離を置いているのかを見分けやすくなる。

(If 〈the practice room〉 is open tomorrow), we will practice there .
M　　S　V　M

M “If the practice room is open tomorrow” / 条件節 / if 節内：the practice room＝S、is＝V、open＝C、tomorrow＝M。is は現在形で、明日についての現実条件を示す。条件が成立するかは未確定。
S “we” / 主節の主語
V “will practice” / 主節の述語動詞 / will practice は、条件が成立した場合の練習について述べる。実際に練習したという事実ではない。
M “there” / 場所

(If 〈the practice room〉 were open now), we could practice there .
M　　S　V　M

M “If the practice room were open now” / 条件節 / if 節内：the practice room＝S、were＝V、open＝C、now＝M。were は過去形だが、now が示す現在について、実際には閉まっている練習室が開いていると仮定している。
S “we” / 主節の主語
V “could practice” / 主節の述語動詞 / could practice は、現在の現実と異なる条件の下で練習できるという可能性・能力を表す。
M “there” / 場所

(If 〈the practice room〉 had been open yesterday), we could have practiced there .
M　　S　V　M

M “If the practice room had been open yesterday” / 条件節 / if 節内：the practice room＝S、had been＝V、open＝C、yesterday＝M。昨日は実際には閉室していた。had been open は、その過去の現実と異なる状態を仮定している。
S “we” / 主節の主語
V “could have practiced” / 主節の述語動詞 / could have practiced は、昨日開いていたという仮定の下で練習できただろうという可能性・能力を表す。実際に練習したかどうかは不明。
M “there” / 場所

時点と現実を分けて見る

区別	基準時と明示事実	想定する条件	その条件での帰結
現実の条件	明日：練習室が開くかは未確定	明日、練習室が開いていれば	そこで練習するだろうという見通し
現在反実	今：練習室は閉まっている	今、練習室が開いていれば	そこで練習できるのに
過去反実	昨日：練習室は閉まっていた	昨日、練習室が開いていたなら	そこで練習できただろうに

ここは覚える

- 現実の条件：If＋現在形, 主語＋will／may など＋動詞の原形
- 現在反実：If＋過去形, 主語＋would／could／might＋動詞の原形
- 過去反実：If＋had＋過去分詞, 主語＋would／could／might＋have＋過去分詞

これらは基本的な対応であり、if がある英文をすべてこの 3 つだけに機械的に分類するものではない。実際の判断には、時を表す語句と文脈も使う。

3. 過去完了形だけで反実とは決められない

解説

had＋過去分詞という形は、過去反実だけに使われるわけではない。過去のある時点より前に、実際に完了していた出来事を表すこともある。

例えば、次の英文を考えよう。

By noon yesterday, Yuki had finished her report.

昨日の正午までに、ユキは報告書を書き終えていた。

ここでは、昨日の正午が基準時であり、それまでに報告書を終えたことを事実として述べている。現実とは異なる仮定ではない。

これに対し、if 節に had＋過去分詞が使われ、主節に would have＋過去分詞などが続く場合は、過去反実の対応が見えてくる。ただし、最終的には文脈にある過去の事実と照合する。

同じ had＋過去分詞でも、過去の出来事の順序を示す場合と、過去の現実から離れた条件を表す場合がある。 形だけでなく、節同士の関係を確かめることが必要だ。

(By 〈noon yesterday〉), Yuki had finished 〈her report〉.
M　S　V　O

M “By noon yesterday” / 時の修飾語 / 昨日の正午を基準時とし、その時点までに完了していたことを示す。
S “Yuki” / 主語
V “had finished” / 述語動詞 / had finished は過去完了形。昨日の正午までに報告書を書き終えていたという事実を表し、反実の仮定ではない。
O “her report” / 目的語

4. 仮定した結果と、実際の結果を混同しない

解説

現在反実や過去反実を読む際、特に注意したいのが主節の意味である。

例えば、「もし昨日、練習室が開いていたなら、練習できただろうに」という英文から、昨日練習室が閉まっていたことは、与えられた状況と一致する。

しかし、「だから昨日は練習しなかった」とまで結論付けることはできない。別の場所で練習した可能性があるからだ。

条件が現実と異なることと、主節で想定された出来事が実際に起きなかったことは、同じ情報ではない。

また、助動詞によって話者の判断も変わる。

- **would**：仮定した条件の下で、そうなると話者が考える。
- **could**：仮定した条件の下で、そうすることが可能であると考える。
- **might**：仮定した条件の下で、そうなる可能性があると考える。

could や might を含む主節を、無条件に「必ずそうなる」と強めてはいけない。would の場合も、仮定した条件の下での帰結を述べているのであって、現実の出来事を報告しているわけではない。

5. 話者の推量と客観的な事実を分ける

解説

現実の条件を述べる英文にも、話者の推量が含まれることがある。

例えば、次の英文を考えよう。

The office lights are on, so the manager may be there.

事務室の明かりがついているので、責任者はそこにいるかもしれない。

明かりがついていることは、英文で事実として述べられている。一方、責任者がそこにいることは、may を使った話者の推量であり、確認された事実ではない。

この区別は、if 節のある英文でも同じである。条件が成立するかどうかと、その条件の下で話者がどの程度のことを述べているかは、分けて読む必要がある。

英文を解釈するときは、まず基準となる時点を確かめ、次に条件節と主節を対応させ、最後に話者の判断の強さを保って日本語にする。この順序なら、事実・可能性・反実を取り違えにくくなる。

©ミライコーチング

〈The office lights〉 are on , so 〈the manager〉 may be there .
S V C S V M

S “The office lights” / 前節の主語
V “are” / 前節の述語動詞
C “on” / 前節の補語 / 本教材では on を、明かりがついている状態を表す C として分析する。前節は明かりがついている事実を述べる。
S “the manager” / 後節の主語
V “may be” / 後節の述語動詞 / may be は責任者がそこにいる可能性を表す。所在が確認された事実ではない。so は二つの節を結ぶ等位接続詞であり、S・V・O・C・M には含めない。
M “there” / 場所

例題

例題 1　現在と異なる仮定

1

状況： マヤは今、自転車を持っていない。

英文

If Maya had a bicycle now, she could go to the town library on her own.

語注： on her own「自分一人で」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、基準時と現実との関係、および主節が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、条件と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

解説

解答・解説

a. 構造

条件節（副詞節）：(If Maya had a bicycle now)

主節：she could go to the town library on her own

条件節の中心は Maya had a bicycle である。had は過去形だが、now によって想定する時点が現在だと分かる。状況では、マヤが今、自転車を持っていないと明示されているため、現在の現実と異なる仮定である。

主節の述語は could go で、could は go に可能性・能力の意味を加えている。条件節の「自転車がある」という仮定の下で、「自分一人で図書館へ行くことができる」と述べている。

b. 全文和訳

直訳

もしマヤが今、自転車を持っていたなら、彼女は自分一人で町の図書館へ行くことができるだろうに。

満点の訳

もし今マヤに自転車があれば、一人で町の図書館へ行けるのに。

読み方のポイント

had を見て「マヤは過去に自転車を持っていた」と訳すのは誤りである。now と could go の対応から、現在反実として読む。

また、この英文が述べるのは仮定した条件の下での能力であり、現実にマヤが図書館へ行けないことまで断定するものではない。

(If Maya had 〈a bicycle〉 now) [M], she [S] could go [V] (to 〈the town library〉) [M] (on 〈her own〉) [M].

M “If Maya had a bicycle now” / 条件節 / if 節内：Maya＝S、had＝V、a bicycle＝O、now＝M。had は所有を表す動詞の過去形だが、now が示す現在について仮定している。マヤは実際には今、自転車を持っていない。
S “she” / 主節の主語
V “could go” / 主節の述語動詞 / could go は、現在の現実と異なる条件の下で、図書館へ行くことができるという能力・可能性を表す。実際に行けないとまでは断定しない。
M “to the town library” / 行き先
M “on her own” / 行動の仕方 / on her own は、自分一人でという意味で go を修飾する。

例題 2　過去と異なる仮定

2

状況： ダニエルは昨日の会議前、入口にある掲示を読まなかった。

英文

If Daniel had read the notice before yesterday's meeting, he would have known the new starting time.

語注： notice「掲示、お知らせ」、starting time「開始時刻」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、どの過去の時点について何を仮定しているか、主節がどのような帰結を述べているか示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、過去の仮定と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

解説

解答・解説

a. 構造

条件節（副詞節）：(If Daniel had read the notice before yesterday's meeting)

主節：he would have known the new starting time

条件節の had read は「had＋過去分詞」である。before yesterday's meeting によって、昨日の会議より前の時点について述べていることが分かる。

状況では、ダニエルがその掲示を読まなかったと明示されている。したがって、ここでの had read は過去の事実の報告ではなく、実際とは異なる過去の条件を表している。

主節の would have known は「would＋have＋過去分詞」であり、掲示を読んでいた場合には新しい開始時刻を知っていただろう、という話者の考える帰結を表す。

b. 全文和訳

直訳 もしダニエルが昨日の会議より前にその掲示を読んでいたなら、彼は新しい開始時刻を知っていただろうに。

満点の訳

ダニエルが昨日の会議前にその掲示を読んでいれば、変更後の開始時刻を知っていただろうに。

読み方のポイント

had read と would have known は、過去反実の条件節・主節の対応になっている。現在反実の had と異なり、ここでは had read という完了形を使って過去の仮定を表している。

ただし、実際にダニエルが新しい開始時刻を知らなかったとまでは断定できない。別の人から聞いていた可能性などは、この英文では説明されていない。仮定した場合の帰結と、実際の知識の有無を区別する必要がある。

(If Daniel had read 〈the notice〉 (before 〈yesterday's meeting〉)), he
M S

would have known 〈the new starting time〉.
V O

M “If Daniel had read the notice before yesterday's meeting” / 条件節 / if 節内：Daniel＝S、had read＝V、the notice＝O、before yesterday's meeting＝M。昨日の会議前に掲示を読んでいた場合を仮定している。実際にはその会議前に掲示を読んでいない。
S “he” / 主節の主語
V “would have known” / 主節の述語動詞 / would have known は、過去の仮定の下で新しい開始時刻を知っていただろうという帰結を表す。実際に知らなかったとは断定できない。
O “the new starting time” / 主節の目的語

演習問題

演習 1

1

状況： 話者は明日の発表会場について、可能性を述べている。地域の集会所が使えるかどうかは、まだ分かっていない。

英文

If the community hall is available tomorrow, the students may give their presentations there after lunch.

語注： community hall「地域の集会所」、available「利用できる」、give a presentation「発表する」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、基準時と条件の成立状況、および主節の may が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、条件と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

演習 2

2

状況： 体育館は今閉まっている。

英文

If the gym were open now, the basketball team could practice there before the evening game.

語注： gym「体育館」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、基準時と現実との関係、および主節の could が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、現在の仮定と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習 3

3

状況： 駅の券売機は今故障しており、正常に動かない。

英文

If the ticket machine worked now, passengers might buy their tickets without asking the station staff for help.

語注： ticket machine「券売機」、passenger「乗客」、station staff「駅員」、work「正常に動く、作動する」、ask A for B「A に B を求める」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、基準時と現実との関係、および主節の might が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、条件と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

演習 4

4

状況： エミは先週金曜日の午前中、席を予約しなかった。

英文

If Emi had reserved her seat on Friday morning, she would have received a confirmation email that afternoon.

語注： reserve「予約する」、confirmation email「予約確認メール」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、過去の基準時と現実との関係、および主節が述べる帰結を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、過去の仮定と話者の判断を保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習 5

5

状況： 月曜日の授業で生徒たちには質問したいことがあったが、授業の初めには質問しなかった。

英文

The teacher could have explained the rule during Monday's lesson if the students had asked their question at the start.

語注： explain「説明する」、at the start「初めに」

a. 構造確認

文末の if で始まる条件節と、その前にある主節を対応させ、過去の基準時と現実との関係、および主節の could have explained が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、過去の仮定と可能性の意味を保って自然な日本語に訳せ。

演習 6

6

状況： 私たちは先週土曜日のピクニック前、天気予報を確認しなかった。

英文

If we had checked the weather forecast before last Saturday's picnic, we might have chosen a different place for lunch.

語注： weather forecast「天気予報」、picnic「ピクニック、野外での食事」

a. 構造確認

if で始まる条件節と主節を対応させ、過去の基準時と現実との関係、および主節の might have chosen が表す判断を示せ。

b. 全文和訳

英文全体を、過去の仮定と話者の判断の強さを保って自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 構造

条件節（副詞節）：(If the community hall is available tomorrow)

主節：the students may give their presentations there after lunch

if 節の is available は現在形だが、tomorrow によって条件が関係する時点は明日だと分かる。明日集会所が使えるかは未確定であり、現実の可能性を残した条件である。

主節の述語は may give で、may は発表が行われる可能性を示している。状況で話者が会場の見通しについて述べているため、ここでの may は許可ではなく推量として読む。

b. 全文和訳

直訳

もし明日、地域の集会所が利用できるなら、生徒たちは昼食後にそこで発表をするかもしれない。

満点の訳

明日、地域の集会所が使えれば、生徒たちは昼食後にそこで発表するかもしれない。

解説

この英文では、条件節は明日の会場の利用可能性を示し、主節はその場合に発表するかもしれないという話者の見通しを述べている。

may give を単に「発表する」と断定的に訳してしまうと、可能性という意味が失われる。また、集会所が実際に使えることも、発表が行われることも、まだ確定していない。

現実の条件を述べる英文では、条件が成立したかどうかを決め付けず、主節の助動詞が表す判断も保つことが重要である。

(If 〈the community hall〉 is available tomorrow) [M], 〈the students〉 [S] may give [V]

〈their presentations〉 [O] there [M] (after lunch) [M].

M “If the community hall is available tomorrow” / 条件節 / if 節内：the community hall＝S、is＝V、available＝C、tomorrow＝M。現在形 is を用いて明日の条件を示す。集会所が利用できるかどうかは未確定。
S “the students” / 主節の主語
V “may give” / 主節の述語動詞 / may give は、条件が成立した場合に発表する可能性を示す。may はここでは許可ではなく推量を表し、発表が実際に行われるとは断定しない。
O “their presentations” / 主節の目的語
M “there” / 場所 / there は、条件節に出てくる地域の集会所を指す。
M “after lunch” / 時 / after lunch は発表する時を示す。

2

a. 構造

条件節（副詞節）：(If the gym were open now)

主節：the basketball team could practice there before the evening game

条件節の were は過去形だが、now によって想定する時点は現在である。状況では体育館が今閉まっているため、were open は現在の現実とは異なる仮定を表す。

主節の述語は could practice であり、その仮定の下ではバスケットボールチームが練習できるという可能性・能力を示している。

b. 全文和訳

直訳

もし体育館が今開いていたなら、バスケットボールチームは夕方の試合前にそこで練習することができるだろうに。

満点の訳

今、体育館が開いていれば、バスケットボールチームは夕方の試合前にそこで練習できるのに。

解説

were を過去の事実として読み、「体育館は以前開いていた」と解釈してはいけない。now と could practice を合わせて確認すると、現在反実の形であると分かる。

また、この文は体育館が閉まっているという現実を前提に、仮に開いていた場合の練習の可能性を述べている。チームが実際にどこで練習しているか、または練習を中止したかは、この英文からは分からない。

(If 〈the gym〉 were open now) M , 〈the basketball team〉 S could practice V there M

(before 〈the evening game〉) M .

M “If the gym were open now” / 条件節 / if 節内：the gym＝S、were＝V、open＝C、now＝M。were は過去形だが、now が示す現在について仮定している。体育館は実際には今閉まっている。
S “the basketball team” / 主節の主語
V “could practice” / 主節の述語動詞 / could practice は、体育館が今開いているという仮定の下で練習できることを表す。実際の練習場所や練習の中止は断定できない。
M “there” / 場所 / there は体育館を指し、practice を修飾する。
M “before the evening game” / 時 / before the evening game は、夕方の試合前という練習の時を示す。

3

a. 構造

条件節（副詞節）：(If the ticket machine worked now)

主節：passengers might buy their tickets without asking the station staff for help

条件節の worked は過去形だが、now があるため、想定している時点は現在である。状況では券売機が故障しているので、これは現在の現実と異なる仮定である。

主節の述語は might buy で、仮に券売機が動いていた場合、乗客が駅員に助けを求めずに切符を買う可能性があると述べている。

b. 全文和訳

直訳

もし券売機が今動いていたなら、乗客たちは駅員に助けを求めることなく、自分たちの切符を買うかもしれない。

満点の訳

今、券売機が正常に動いていれば、乗客たちは駅員の助けを借りずに切符を買うかもしれない。

解説

worked は、過去に券売機が動いていたという事実を表すものではない。現在の故障という現実に対し、正常に動く状況を想定している。

ここで特に重要なのは might である。might buy は、券売機が動いていれば乗客が必ず切符を買うという意味ではない。あくまで、そうする可能性があるという話者の判断を示す。

したがって、「乗客は必ず切符を買うだろう」とする訳は強すぎる。また、実際に乗客が駅員に助けを求めているかどうかも、ここでは確定していない。

(If 〈the ticket machine〉 worked now) , passengers might buy 〈their tickets〉
M S V O

(without 〈asking 〈the station staff〉 (for help)〉) .
M

M “If the ticket machine worked now” / 条件節 / if 節内：the ticket machine＝S、worked＝V、now＝M。worked は過去形だが、現在の正常な作動を仮定している。券売機は実際には今故障している。
S “passengers” / 主節の主語
V “might buy” / 主節の述語動詞 / might buy は、条件が成り立つ場合に乗客が切符を買うかもしれないという行為の可能性を表す。必ず買うとも、買える能力があるとも述べていない。
O “their tickets” / 主節の目的語
M “without asking the station staff for help” / 行為の仕方 / without asking the station staff for help は buy を修飾する副詞句。without の目的語は動名詞句 asking the station staff for help であり、その内部では the station staff が asking の対象、for help が求める内容を示す。

4

a. 構造

条件節（副詞節）：(If Emi had reserved her seat on Friday morning)

主節：she would have received a confirmation email that afternoon

条件節の had reserved は「had＋過去分詞」であり、先週金曜日の午前中に席を予約していた場合を仮定している。状況によれば、エミは実際にはそのとき予約していない。

主節の would have received は「would＋have＋過去分詞」で、金曜日の午前中に予約していたなら、その日の午後には予約確認メールを受け取っていただろうという、話者の考える帰結を表す。

b. 全文和訳

直訳

もしエミが金曜日の午前中に自分の席を予約していたなら、彼女はその日の午後に予約確認メールを受け取っていただろうに。

満点の訳

エミが金曜日の午前中に席を予約していれば、その日の午後には予約確認メールが届いていただろうに。

解説

had reserved と would have received の対応から、過去反実であると判断する。Friday morning が仮定した予約の時点、that afternoon が仮定したメールの受信時点であり、午前から午後への時間関係を崩してはいけない。

この文は、予約していた場合のメールの受信について述べている。実際に確認メールを受け取らなかったかどうかまで、追加して断定する必要はない。

また、満点の訳では「メールを受け取る」を「メールが届く」と自然に言い換えている。受信者がエミであることと、仮定した時点・帰結が保たれていれば、このような日本語の表現の違いは問題にならない。

(If Emi had reserved 〈her seat〉 (on 〈Friday morning〉)) [M], she [S] would have received [V] 〈a confirmation email〉 [O] (that afternoon) [M].

M “If Emi had reserved her seat on Friday morning” / 条件節 / if 節内：Emi＝S、had reserved＝V、her seat＝O、on Friday morning＝M。金曜日の午前中に予約していた場合を仮定している。実際にはその日の午前中に予約していない。
S “she” / 主節の主語
V “would have received” / 主節の述語動詞 / would have received は、予約していたなら確認メールを受け取っていただろうという過去の仮定の下での帰結を表す。実際の受信の有無は断定しない。
O “a confirmation email” / 主節の目的語
M “that afternoon” / 時 / that afternoon は、金曜日の午後という仮定した受信の時点を示す。

5

a. 構造

主節：The teacher could have explained the rule during Monday's lesson

条件節（副詞節）：(if the students had asked their question at the start)

この英文では、主節が先にあり、条件節が後ろに置かれている。文末の if 節も、主節全体に条件を付け加える働きは同じである。

条件節の had asked は「had＋過去分詞」で、月曜日の授業の初めに生徒たちが質問していた場合を仮定している。状況では質問しなかったと明示されているため、過去反実である。

主節の could have explained は、その条件が成り立っていれば、先生は規則を説明することができただろうという可能性・能力を表している。

b. 全文和訳

直訳

もし生徒たちが月曜日の授業の初めに自分たちの質問をしていたなら、先生はその授業中にその規則を説明することができただろうに。

満点の訳

生徒たちが月曜日の授業の初めに質問していれば、先生はその授業中に規則を説明できただろうに。

解説

if 節が文末にあっても、条件の方向は変わらない。「生徒たちが質問していたなら」という仮定の下で、「先生は説明できただろう」という主節の内容を読む。

could have explained を「先生は説明した」と訳すのは誤りである。この形は、ここでは過去の仮定の下での可能性を表しており、説明が実際に行われたという報告ではない。

同様に、実際に先生が規則を説明しなかったと断定することもできない。授業の別の時間に説明した可能性などは残されている。

英語では主節が先、条件節が後という順序だが、日本語では条件を先に訳すと自然になる。訳す順序を変えても、条件と帰結の関係は維持する必要がある。

〈The teacher〉 could have explained 〈the rule〉 (during 〈Monday's lesson〉)
S V O M

(if 〈the students〉 had asked 〈their question〉 (at 〈the start〉)) .
M

S “The teacher” / 主節の主語
V “could have explained” / 主節の述語動詞 / could have explained は、過去の仮定の下で先生がその規則を説明できただろうという可能性・能力を表す。実際に説明したかどうかは断定できない。
O “the rule” / 主節の目的語
M “during Monday's lesson” / 時 / during Monday's lesson は、仮定した説明が行われる時間を月曜日の授業中に限定する。
M “if the students had asked their question at the start” / 条件節 / if 節内：the students＝S、had asked＝V、their question＝O、at the start＝M。月曜日の授業の初めに質問していた場合を仮定している。実際には授業の初めに質問しなかった。条件節は主節の後ろに置かれている。

6

a. 構造

条件節（副詞節）：(If we had checked the weather forecast before last Saturday's picnic)

主節：we might have chosen a different place for lunch

条件節の had checked は「had＋過去分詞」であり、先週土曜日のピクニックより前に天気予報を確認していた場合を仮定している。実際には確認していなかったという状況が明示されているため、過去反実である。

主節の might have chosen は「might＋have＋過去分詞」で、天気予報を確認していた場合に、昼食を取る場所を別の場所にしていた可能性があるという話者の判断を表す。

b. 全文和訳

直訳

もし私たちが先週土曜日のピクニックより前に天気予報を確認していたなら、昼食のために別の場所を選んでいたかもしれない。

満点の訳

先週土曜日のピクニック前に天気予報を確認していれば、昼食を取る場所を別のところにしていたかもしれない。

解説

had checked と might have chosen の対応から、過去反実であることが分かる。先週土曜日はピクニックの時点を示している。条件節はそのピクニックより前に天気予報を確認していた場合を、主節は確認していた場合の昼食場所の選択を表している。

ここでの might have chosen は、過去の仮定に基づく可能性である。might have＋過去分詞という形を、文脈を確認せずに過去の出来事に関する推量として扱うのは適切ではない。

また、「天気予報を確認していれば、必ず別の場所を選んだだろう」とする訳は強すぎる。話者は別の場所を選んだ可能性を述べているだけであり、選択が確実に変わったとは言っていない。

実際の昼食場所や天候、別の場所へ移動しなかった理由なども、この英文から新たに補うことはできない。過去の現実として明示されたのは天気予報を確認しなかったことだけであり、それ以外は仮定した条件の下での話者の判断として読む。

(If we had checked 〈the weather forecast〉 (before 〈last Saturday's picnic〉)) [M], we [S]

might have chosen [V] 〈a different place 〔for lunch〕〉 [O].

M “If we had checked the weather forecast before last Saturday's picnic” / 条件節 / if 節内：we＝S、had checked＝V、the weather forecast＝O、before last Saturday's picnic＝M。先週土曜日はピクニックの時点であり、天気予報の確認はそれより前。実際にはピクニック前に確認していないため、過去の現実と異なる仮定を表す。確認が土曜日当日だったとは限らない。
S “we” / 主節の主語
V “might have chosen” / 主節の述語動詞 / might have chosen は、天気予報を確認していた場合に、別の場所を選んでいたかもしれないという過去の仮定の下での可能性を表す。選択が実際に変わったとは断定しない。選択したと仮定する日も特定されていない。
O “a different place for lunch” / 主節の目的語 / 本教材では a different place for lunch を一つの名詞句とし、for lunch は place を後ろから説明する形容詞的な前置詞句として読む。昼食のための別の場所という意味である。